



そのだ南

尼崎市立園田南小学校
学校便り 第4号
令和2年 6月1日

HPアドレス www.ama-net.ed.jp/school/E45/index.html



お互いを支える心 校長 佐藤 喜代子

まだまだ油断は禁物ですが、ようやく学校に子ども達の元気な声や姿が戻ってきました。久しぶりの子ども達は、少し体が大きくなり、逆に声を出す機会が減って、声が小さくなった気がします。本格的な再開まで最初の2週間は準備期間として分散登校を行い、まずは、生活リズムを戻すことからスタートしていきます。予防対策を徹底する中で人数や時間を制限したり、新しい様式での学校生活となります。一方で、学校でしかできないこと、人との関わりでこそ培われるものを大事に、手探りの部分ではありますが、子ども達の安全を第一に、心と体の健康を最大限意識して進めてまいります。家での時間がまだまだ多いのが現状ですが、さまざまな工夫をこらして子ども達の学習や体づくりを支援していける環境を整えていければと考えます。今後は、学習スタイル、給食の進め方、体育、音楽、理科や家庭科などの実技、実習を伴う教科、行事の精選やその方法を見直す必要があります。何でもかんでもなくすことが賢明な判断とはいえませんので、さまざまな効果や意義を勘案して取捨選択していく事になります。それに伴い、普段ならお知らせしている年間行事予定が、変更に次ぐ変更で、未だ確定していない状況です。今後の感染状況の変動を見ながら決めていくこととなりますので、どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。決まり次第、随時お知らせしていきます。

第二波、第三波に備えるには、日頃の習慣づけが一番です。日本が、継続できた効果についての内容です。

政府からの外出自粛要請が強制力はなかったのに、人と人との接触を8割減らす目標が概ね達成された。大きな驚きだ。人間のタイプは三つに分けられる。自発的に行動を変えられる人が2割、他人に言われて変えられる人が6割、絶対に変えられない人が2割だ。変えられる人のほぼ全てが政府の要請を受け入れたことになる。自分の行動が他人のためになるという「利他心」を上手く刺激したからだろう。一方で行動経済学の研究では、言葉による協力依頼だけでは限界がある事も明らかになっている。通常は、1~2週間程度が耐えられる限界だ。外出自粛に対する不満は徐々に大きくなっている。感染の再拡大を招かないように新しい生活様式への移行が叫ばれているが、定着は容易ではない。言葉だけで促した行動の変化が生活習慣になることは滅多にないからだ。そこで重要になるのが国民へのメッセージの出し方だ。同時に多くのことを求められても受け入れられない。対策の効果の「見える化」も大切だ。手洗いで感染をどれだけ防げたかなど、数字でわかればやる気を引き出せる。目標はあまり難しくせず、少し頑張れば達成できる基準にしておくのがよい。感染症対策はもちろん必要だが、経済活動との両立が大切だ。必要な人には必要な制限を続け、そうでなければ徐々に日常の生活に戻すなど、リスクを冷静に見極めれば、経済への悪影響を小さくできる。

参照：京都大学行動経済学教授 依田 高典 読売新聞 R2.5.21

また、その反動として、こういう一面も目立ちました。

パンデミック（世界的大流行）の恐ろしさは社会の分断にある。この数ヶ月、私たちはその威力を見せつけられてきた。感染症の恐怖は差別と社会的排除を加速化する。全国各地で自粛警察のような嫌がらせがたくさん起きているという。なぜここまで排除思考が横行するのか。背景には自粛を要請し、経済を止めたくない意向が結果的に人々の不安のはけ口として排除思考を暴走させている点が挙げられる。自粛の内実は個々人の解釈にゆだねられるため、意識差により排除思考が生まれる場合もある。この分断は社会の中で相対的に弱く、不安定な立場にある人に対し、より過酷な状況を強いる。人種、地域、就業上の地位、所得、そして性差・・・と、さまざまな差異がこのウイルス禍で分断と排除の源泉となっている。これらは、不安や恐怖の裏返しでもある。社会の分断を加速し、収束後も禍根を残す恐れのあるこの排除思考こそが人類最大の敵ではないだろうか。

参照：詩人・社会学者 水無田気流 R2.5.13 神戸新聞

新型コロナウイルスの流行をめぐり、「感染は本人のせい」と捉える傾向が、欧米に比べて日本は突出して高いことが阪大などの調査でわかった（日、米、英、伊の3月末の調査）。従来の研究でも日本人は欧米人と比較して「不運な目に遭うのは自業自得」と考えやすいとされており、新型コロナウイルス感染者を責めたり、謝罪を求めたりする不寛容さとの関連も考えられる。本人のせいだと思うのが、欧米では3~5%なのに対して日本は15.3%、自業自得と思うの

も他国は1～2%なのに対し、日本は11.5%であった。職業や行動などによるリスクの程度の差こそあれ、新型コロナウイルスは誰でも感染する可能性がある。にもかかわらず、感染者への嫌がらせや差別的な言動が日本各地でおり、ネット上では激しい中傷も見受けられる。 参照：R2.5.17 神戸新聞

日本に住む我々の我慢強さや真面目な人間性で大きな拡大が免れている反面、心の狭さや寛容性の低さが表面化しているといえます。先が見えない不安に加えて生活を脅かす大きな打撃を受けて、冷静さを求めるのは酷な話です。しかしながら、こんな大変な今こそ、みんなで支え合い、もうひと踏ん張りする芯の強さを子ども達には学んで欲しいと願っています。

※ 再開に向けての詳細を配布しますので、よくご確認の上、時間や持ち物などのお間違えのないようによくお願いいたします。防止策を徹底し、体調を最優先に、決して無理をしないよう気をつけてください。

※ 今後、4～6年生においては、7月頃をめどに授業時数確保のために木曜6校時を授業とすることがあります。その場合は前もってお知らせしますので、ご了承ください。

6月 行事予定

1学期生活目標

1日(月)	分散登校(～12日まで)		17日(水)	
2日(火)			18日(木)	●
3日(水)			19日(金)	
4日(木)		●	20日(土)	
5日(金)			21日(日)	
6日(土)			22日(月)	
7日(日)			23日(火)	
8日(月)			24日(水)	委員会 1年生給食開始
9日(火)			25日(木)	1～3年(15時～) ひまわり学級(16時～) 懇談会 ●
10日(水)			26日(金)	4～6年 懇談会(16時～)
11日(木)		●	27日(土)	
12日(金)			28日(日)	
13日(土)			29日(月)	
14日(日)			30日(火)	
15日(月)	放送朝礼 2～6年 給食開始	諸費振替日	7月の行事予定	
16日(火)			31日(金)終業式 8月1日～17日 夏休み	



きまりを守って規則正しい生活習慣を身につけよう

6月のめあて

気持ちの良いあいさつをしよう



おしらせ

【今年度中止が決まっているもの】

- ・尼崎市小学校連合体育大会 (例年6年生が参加)
- ・尼崎市小学校音楽会 (例年4年生が参加)
- ・プールでの水泳運動系の授業
(※水の事故防止に関する学習は教室で実施します。水着の準備も必要ありません。)
- ・地区別水泳記録会
- ・南小祭り

【延期、もしくは検討中のもの】

- ・自然学校や修学旅行などの宿泊を伴う学習
- ・体育大会
- ・図工展



詳しいことが決まり次第、ミマモルメ等でお知らせいたしますので、ご確認ください。